

# With

ウィズ

北海道社会事業協会帯広病院

〒080-0805 帯広市東5条南9丁目2番地

TEL:0155(22)6600 FAX:0155(22)6620

<http://www.obihiro-kyokai-hsp.jp/>

No. 5

発行日  
2011.10.31

## 地域の患者さんと共に、地域と共に！ 地域医療連携ニュース



(美瑛町 ゼルダの丘)

### 今号の内容

- 協会病院の乳房検査について ..... 2
- 第6回地域医療連携懇親会が開催 ..... 4
- 地域医療連携室が院内移転しました..... 4

## 帯広協会病院の乳房検査

近年、日本でも乳癌患者は増加の一途を辿り、当院でも検診・精密検査等あわせて年間4700件ほどの乳房検査を行っています。その内容は厚生労働省が推奨するマンモグラフィと視触診の併用ですが、それだけでは評価が困難な場合、乳腺エコー検査も併せて行っています。

### マンモグラフィ検査



当院のマンモグラフィ検査は、画像診断科で精度管理中央委員会の認定を受けた女性技師が撮影を行っています。外部とは仕切られたマンモグラフィ専用の撮影室で、マンモグラフィ用の検査衣を着用してもらい、さらに看護師等の女性スタッフが必ず立ち会うなど、安心・安全な検査を提供するよう心がけています。

撮影の都度担当技師は写真の読影を行い、レポートを作成します。レポートにはマンモグラフィ上の腫瘍や石灰化などの所見を記載し、ガイドラインに基づいてカテゴリー分類をします。また、しこりの触知や異常分泌など、被検者とのコミュニケーションや撮影の中から得られた情報も記載します。微細な石灰化や小さな腫瘍など早期乳癌の発見にも有用なマンモグラフィですが、中には乳腺濃度が高く評価が困難な症例もあります。

### 乳腺エコー検査



腫瘍の質的診断や、マンモグラフィでは発見が難しい乳腺に隠れた腫瘍の存在診断に有用なのが乳腺エコー検査です。当院ではマンモグラフィの技師読影でカテゴリー3以上、あるいは高濃度乳腺で評価が困難である場合や被検者自身が痛み等を感じている場合は、医師の診察前に臨床検査科で乳腺エコー検査も行っています。

臨床検査科では乳腺エコー検査は女性技師が担当しています。乳腺エコーに携わる技師はJABTS主催の乳房超音波実力試験の認定を受けています。各地で開催される勉強会にも積極的に参加し、技術・知識の向上をはかっています。

乳腺エコーを行う前に担当技師が必ずマンモグラフィを確認し、病変の位置や所見を把握して検査に臨みます。また、全ての検査で両乳房全体および腋窩リンパ節を検査しており、マンモグラフィでの指摘や症状が無い部位の病変も拾い上げています。過去に当院で乳腺エコーを受けている場合は、病変の変化について過去画像と比較しながら検査を行っています。

エコー検査後は担当技師がレポートを記載し提出していますが、カテゴリー分類や推定組織型を記載し、病変を実際に観察した技師としての意見も所見と共に報告しています。

## 診察・視触診

これらの検査を受けた後、被検者は外科外来で外科医による診察を受けます。医師はマンモグラフィやエコーの写真を見ながら、あるいはレポートを参考にしながらスムーズに診察を行うことができます。もちろん技師読影で異常が指摘されなかった症例でも、医師が気になればその場でエコーを追加することもあります。

しかしながら、マンモグラフィでは写らず触診で発見される乳癌もわずかながら存在します。そのため、必ず視触診も行っています。

この様に、当院ではそれぞれの検査の特徴を活かし補い合うことで、できる限りの乳癌を拾い上げるよう努めています。さらに、マンモグラフィで異常が指摘されなかった症例については、その写真を札幌医科大学に送り、放射線科医も読影を行っています。マンモグラフィは放射線技師、外科医、放射線科医の3重のチェックを、またエコー画像は検査技師と外科医のダブルチェックを行うことで、見落としの無いように対応しています。

当院ではそれぞれの部署の連携を深め、知識を共有するために月に1度乳腺カンファレンスを行っています。今後もより多くの女性を乳癌から救うため、スタッフ一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。



## 外科医からのコメント

病棟診療部長 阿部厚憲



当院で乳腺疾患を担当している外科です。当科医師は北大第一外科で乳腺疾患に対する診断、治療について一通りの研修を受け、各地で対がん協会の乳がん検診に参加、さらに各出張病院で乳腺診療を担当しています。とかく消化器が専門のように思われがちですが、実は乳腺疾患も専門にしています。視、触診だけで乳がんを見つけようとしていた時代と異なり、現在ではマンモグラフィ、エコー、CT、MRIなど画像診断機器を駆使して診療にあたります。画像診断科、臨床検査科と協力することにより正確かつ迅速な診断が可能です。さらに薬剤科、看護部とも協力することでの確かつ安全な治療を提供することができます。乳がん診療では手術のみならず毎年のようにめまぐるしく変わる治療ガイドラインに対応できるよう学会、研究会にも積極的に参加し、定期的に院内カンファレンスを開催、最新の医療水準を保つように研鑽しています。

## 第6回地域医療連携懇親会

平成23年6月22日

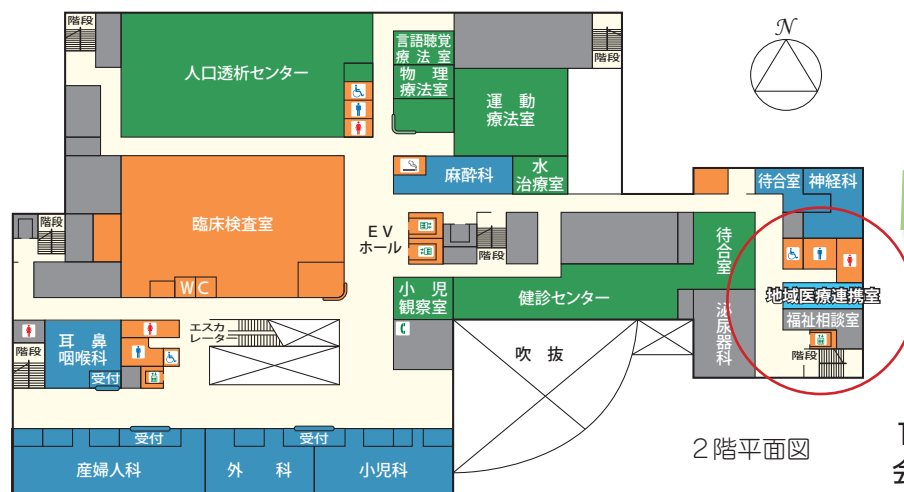


第6回帯広協会病院地域医療連携室主催「地域医療連携懇親会」が平成23年6月22日19時より、「帯広東急イン」で開催されました。「地域医療連携懇親会」は、平成18年6月に帯広協会病院のOB医師と院内医師の交流を中心とした懇親会として開催され今回で6回目となります。準備には当院地域医療連携委員会のスタッフが当たります。今年もOBの先生16名を始め帯広市内や十勝管内の医療機関から医師31名、当院院長以下30名と合計で61名の参加となりました。及能院長の開会挨拶のあと、秋川恵二先生（秋川内科医院院長）から来賓代表挨拶を頂き、一柳伸吾先生（いちやなぎ内科消化器科院長）の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。

清水斎地域医療連携室長（副院長）から協会病院の平成22年度の患者紹介状況の報告がされたあと、参加医療機関の先生方の自己紹介、当院各診療科紹介と続きました。また今後の取り組みとして、十勝地区に導入が検討されているSS-MIX標準化ストレージによる「地域医療ネットワーク」（厚生労働省電子的診療情報間推進事業）の概要について紹介されました。懇親会場では地域の先生方と当院医師間での普段聞けない情報交換などもあるようで、なごやかに懇親も深まり予定された約2時間が短く感じられるほどでした。おわりは田中章二先生（田中醫院理事長）のご挨拶と参会者のご健勝を祈念しての乾杯でお開きとなりました。



## 地域医療連携室が院内移転しました



新しい  
地域医療連携室です。

2階平面図

10月14日より、連携室が帯広協会病院2Fに移動いたしました。